

福光地域 会議録

件名	エンジョイふくみつ（福光地域提言実現検討組織）による第12回会議		
日時	令和5年1月24日（火）19:00～21:00	場所	福光会館（旧ベル）2階 サークル室3
出席者	検討組織メンバー（現地）5名、（オンライン）6名、ファシリテーター1名、事務局（政策推進課）2名		
内容	①ファシリテーター・メンバー自己紹介、②現状確認、今後の進め方について協議		
概要	<p>◆②現状確認、今後の進め方について協議（資料1） （○…代表発言、●…メンバー発言、◇ファシリテーター発言、→事務局発言）</p> <p>→（資料1に基づいて説明） 福光地域のにぎわいづくりについては、地域に住む皆さん方が主体的に取り組むことが大前提であり、それに伴い、足りない部分は、新たに人を呼び込むのか育てていくのかということも含めて、住民主体による取り組みが求められる。あくまで、皆さんがプレーヤーだという意識の基で進めていきたいと考えているのでご理解いただきたい。 今回から新町氏にファシリテーターをお願いするが、議論の進捗を図るだけでなく、皆さんの意識の向け方についても助言いただきたいと考えている。</p> <p>◇先ほどから皆さんの発言を伺い、それぞれに夢を描いておられるが、このままではまとまらないように感じた。 →具体的に、次の一步を、どこで、どう判断して、どのように進めていくのかという部分で議論が止まる。</p> <p>◇具体的なイメージが見えていないのではないか。 →何のためにかわまちづくりをするのか、目的をはっきりさせる必要がある。</p> <p>●先日実施したアンケートの結果から、具体的な進め方が見えているように思っていた。例えば、誰かが、それぞれのイベント等を一元化してプロデュースすれば、相当大きな力になると思う。</p> <p>◇小矢部川公園を活用したかわまちづくりの方向性で、メンバーの皆さんの合意は得られているということか。 ●私は、そのように理解している。</p> <p>◇この方向性で、エンジョイふくみつの皆さんは合意されているという理解でよいか。 →小矢部川を中心としたにぎわいづくりに注力することで、皆さんは了解だろうか。</p> <p>●小矢部川を中心としたにぎわいづくりが、皆さんの共通した意識で1つにまとまっていると認識している。</p> <p>●とにかく小矢部川を中心としたにぎわいづくりに注力して、みんなで力を合わせてやらないことには他のところへ波及していかない。</p> <p>●できることからやっていくことで動いてみたが、様々な課題に直面し現在に至っている。今後課題がクリアできれば、取り組んでいける企画だと認識している。イベントに関しては、3年ぶりに主なイベントが開催され、来年度も引き続き開催されるのであれば、エンジョイふくみつとしてもそれらのイベントを盛り上げていくような取り組みもできるだろう。</p> <p>◇皆さんも同じような認識だろうか。 ●現在3つの部会がありイベントはその1つであるが、各部会の活動も進んでいない。 ●皆さんの認識の中に、かわまちづくりの計画作成という部分があるだろうか。皆さんの念頭に無い中で議論してもまとめることは難しい。7月12日の会議で出されたアイデアを計画に落とし込めばよいと思うが、皆さんいかがだろうか。 ●凝縮された目的意識がないと、各方面に波及していかない。ぶつかり合うことを覚悟の上で、計画は作っていくべき。 ●まちづくり検討会議の提言にある「今あるものを活かしたにぎわいづくり」に基づいて議論しているので、ぶれてはいないだろう。</p> <p>◇これまでの会議において、誰が申請書を作成するのか決定しているのか。 ●全く決まっていない。</p> <p>◇小矢部川公園を活用したにぎわいづくりの方向性はメンバーの皆さんが合意しているが、それを実現するための申請書を作成することが具体的に進まないことには、一步も前に進まない。 ●具体的なスケジュールで目標を決めておけば、着実に進められるのではないか。</p> <p>◇申請書の作成やそれを提出し認可を受けることは非常に難易度が高く、様式に則って計画案としてまとめ上げるまでのことは、誰かが深く考えて体裁を整える必要がある。申請書作成と既存のイベントを計画書に落とし込むことは全く別のこと。</p>		

- そうであれば、専門家の方に頼めばよいのではないだろうか。
- ◇ どのくらいの難易度があるのか、作業に取りかかってみないことには分からない。今、この組織が組織立って動けていないというのは、担当者を決めて、その人が実際に進めていないということ。
- この会ではアイデア出しをしてまとめることはできるが、申請書作成まではできないので専門家が必要。
- ◇ 専門家というよりも実際に紙に落とし込む人が必要で、そこまでは決まっているのか。
 - 決まっていない。実施要綱によると、福光の場合、かわまちづくりの申請者は市を構成員に含む協議会になるだろうと想定していて、市も当然関わる必要があると考えている。但し、市が計画書を作成すると市の計画になってしまって、皆さんの計画ではなくなる。
- 確認だが、市は、城端、井波、福野と同じように、福光のにぎわい創出のための予算を確保しているということではよかったか。
 - 城端、井波、福野のような予算は福光には無く、市全体で実証実験をする程度の予算しか確保していない。ソフト事業として認められる部分があれば、その部分に対して経過措置的として支出することは考えられる。
- にぎわいづくりのために良い企画があって、実証実験を経て、それが良いとなれば、市の方で実施されるというものではないのか。
 - 市では取り組むことはない。自立するまでは何らかの予算措置は必要だと考えるが、予算ありきで事業を考えるものではない。
- そもそもこの議論は、庁舎統合による議論をきっかけであり、福光地域に庁舎が統合されたことから、城端、井波、福野のような特別な予算は無いということ。
- この予算があるから使ってほしいではなくて、市民が取り組みたい活動に対して市が応援するようなスタンスだと認識している。事業の内容によって、市は支援をする考えであるという理解でよかったか。
 - 基本的には自分たちで自走していくことを前提に、市として応援できる部分について予算対応を考えたい。予算ありきではなくて事業ありきであるということ。
- だとすれば、どこが着地点になるのか。
 - 着地点も皆さんで決めていただきたい。
- 着地点は、かわまちづくり計画を申請して、それが採択されたとして、それを基に実行していくことだと理解している。今は、誰が、どのように申請書を作成していくのかを議論した方がよいだろう。
- かわまちづくりの申請書を作成するのに必要な人材の予算対応は可能か。
 - 今、判断はできない。市としてかわまちづくりの申請のお手伝いはさせてもらうが、市が先頭に立って作成しても意味が無い。
- ◇ 本来は、①何を、どうするのかを固める。②身の丈にあった取り組みを積み重ねる。③かわまちづくりの申請に落とし込む。その上でどうするのかというのが、一般的な進め方である。かわまちづくりが前提になっていることについてメンバー全員の合意形成ができていのであれば、それに基づいて、これからどう進めるのか、どんな組織で、どんな分担をするのかなどの課題整理をして落とし込んでいくという過程が必要になるだろう。
 - このままでは前に進まないで、課題を整理した上で、何ができるのか確認したい。ファシリテーターの助言にあった3つの視点に立って、かわまちづくりの申請に向けた動きに漕ぎ着けたい。事務を担う者の委託については現段階では考えにくいので、久恵代表をはじめとする数名の方々に相談しながら、事務局を担う方について打診していけたらと考えている。
- ◇ 今後はどのような予定か。
 - 例えば、福光地域の職員を事務局に据えて、かわまちづくりの素案を作り始めるようなイメージで進めていけたらと考えている。
- 壮大な計画になるかもしれないが、私たちがすぐにできることは身の丈に合った取り組みであることを肝に据えて、歩みを早めていきたい。

(以上)

◆ 次回会議

日時…未定

場所…未定

第12回 エンジョイふくみつ

日時：令和5年1月24日（火）

午後7時00分～

場所：福光会館2階 サークル室3

あいさつ

協議事項

1. ファシリテーター・メンバー自己紹介

2. 現状確認、今後の進め方について協議

資料1

3. 各部会からの報告

(1) 事業系部会

(2) イベント系部会

(3) 広報部会

4. その他

平成30年

2月

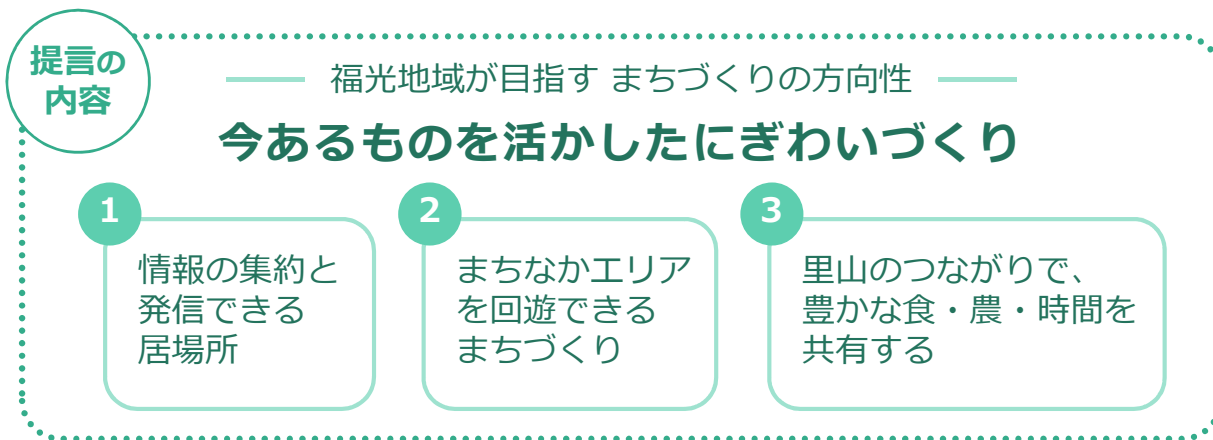
庁舎統合の議論をきっかけに、地域住民主体の検討組織「まちづくり検討会議」を設立。

地域からの推薦や公募によって参加された15名のメンバーで構成された会議です。全15回の会議を開催し、将来を見据えたまちづくりの方向性と必要な施策について検討がなされました。

平成30年

12月

まちづくり検討会議でのこれまでの議論の結果を提言書にまとめて、南砺市に提出されました。

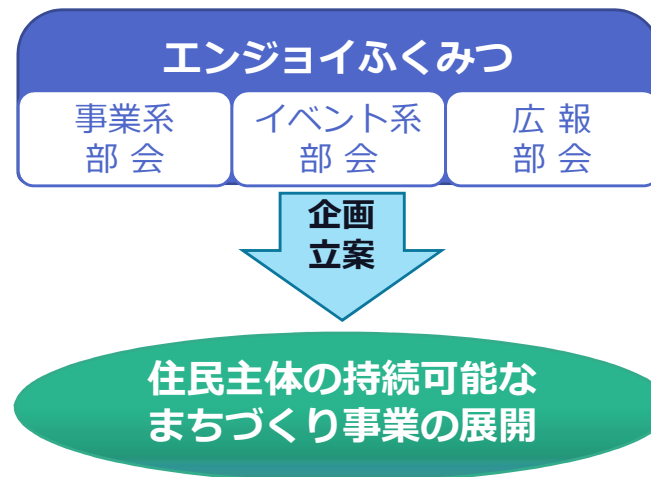


現在

まちづくり検討会議からの提言の実現に向けて、小矢部川を中心としたにぎわいづくりの企画・検討をしています。

提言の実現に向けて「エンジョイふくみつ」を結成し、提言の内容を踏まえて、小矢部川を中心としたにぎわいづくりのためのイベントや事業を企画しています。

組織内に、事業系、イベント系、広報の3つの部会を設け、具体的な内容や提言実現に向けたアンケートの実施や実証実験を検討しています。



■まちづくり検討会議からの提言と

これまでに提出された提言の実現に向けた企画案

との関連について

提言の実現に向けた 企画案の考え方

自分ができること、
既に取り組んでいる
ことも含めて

自分たち
で取り組
む視点

取り組む
優先順位
(ソフト・
ハード)

どんなに
ぎわいを
つくる

まちづくりの方向性 今あるものを活かした にぎわいづくり

1 情報の集約と発信できる居場所

人と情報が交流することで共感が得られる居場所づくり（安心できる場）

- ・ 情報集積・発信、人と地域、行政、関係機関とをつなぐ場所
- ・ 多様な人からの様々な丸ごと相談窓口の設置と弱者支援

たまり場（コミュニティカフェ）

なんと新聞福光版

2 まちなかエリアを回遊できるまちづくり

様々な人々が集い、まちの歴史を感じ、健康づくりをしたり、楽しめる環境をつくり、まちなかを活性化する（多くの人々が出歩く）

- ・ 福光福祉会館周辺に多世代で利用できる全天候型の居場所設置

農泊体験

セルフリノベーション塾

- ・ 空家や空店舗を活用したお散歩の駅の設置

オーガニックカフェ

川沿いの空家活用

アートギャラリー

- ・ 街中周遊散策コースの設置

- ・ カフェ、シェアキッチン、遊び場の整備で多世代交流

セルフリノベーション塾

河原マルシェ

- ・ 小矢部川の環境整備

川沿いの環境整備

3 里山のつながりで、豊かな食・農・時間を共有する

里山の魅力を再発見し、まちなかとのつながりを深める（里山も活性化）

- ・ 里山の魅力発見イベントの開催と農産物のまちなかでの提供

農泊体験

歴史の道「殿様街道」整備

地域資源発見隊

共存共栄の策を考えよう

- ・ 里山マイスターから学ぶ体験活動

農泊体験

■ ファシリテーターの導入について

● 目的

福光地域まちづくり検討会議から提言があった「今あるものを活かしたにぎわいづくり」の実現に向けた企画立案の進展

● 提言実現に向けた前提条件

住民主体による
取り組み

行政に依存しない
持続可能な事業

まちづくりに関わる
人材発掘・育成

● 現在の協議中の企画

1 小矢部川公園を活用する
かわまちづくり

⇒ どのような活用で小矢部川公園のにぎわいを創出するか

2 里山と街なかをつなぐ
農業体験（雪下人参収穫）

⇒ 市外からの農業体験者と中心市街地での宿泊を組み合わせた
面的効果が発揮できるか

※今年度（3月上旬）に地域の子供を対象とした実証実験を予定

3 街なかの空家を活用する
リノベーション塾

⇒ 継続的な塾の運営体制が構築できるか

● 最終目標

福光地域の提言実現に向けた企画の立案と事業化に向けた活動